

東京いきもの台帳・植物分野 ニュースレター No.3

TOKYOENSE

Dec. 26, 2025



Red Data Plants in Tokyo : シロバナコシオガマ 2025.10.23 新島南部

道路沿いの路肩や法面に点々と生育。通常は淡紅紫色の花を咲かせるコシオガマですが、島民の方によれば新島のものはすべて白花とのこと。島のような地理的に隔離された小集団では、元の集団とは異なる形態的変異が生じやすいことを示す良い事例と思われます。

特集 東京都植物目録(暫定版)を公開！

植物標本目録公開の経緯と現状について	加藤 英寿	2
東京の植物へのこだわり	内野 秀重	3

コラム

東京 Topics of Flora ③ マツカサススキ <i>Scirpus mitsukurianus</i> Makino	4
文献から探る東京の植物 ③『牧野富太郎植物記8 植物採集』.....	5
東京都のコケ目録づくり 一コケ班の現場から—	6
活動報告 (2025年7~10月)	
◇教育普及活動報告	7
◇主な専門員植物相調査記録	8
■編集後記.....	8

特集 東京都植物目録(暫定版)を公開！

～2025年12月16日、東京いきもの台帳に植物目録の一部を公開～

◇ 東京の植物相を明らかにする意義

東京都には、雲取山山頂の亜高山帯から多摩山塊の冷温帯、多摩丘陵から伊豆諸島の暖温帯、小笠原諸島の亜熱帯に至るまで、様々な気候環境に生育する植物がみられます。そして新たな外来種の侵入や気候変動、開発などの影響に伴い、都内各地の生物相は急速に変化しつつあります。東京都の生物多様性を保全するためには、植物相の現状を把握するだけでなく、標本等の記録から過去の植物相とその変遷過程を探ることが求められます。



東京いきもの台帳 HP 画面(URL:<https://www.inventory.ikimono.metro.tokyo.lg.jp/>)



東京都植物目録作成フロー

◇ 東京都野生生物目録(植物目録)の作成の流れ

東京都野生生物目録では、過去から現在までに記録された野生生物の情報を取りまとめています。植物については、左図の通りまずは標本情報から、段階的に公表を進めます。標本は、「いつ、どこで、どんな植物が生育していたのか」を把握する上での確かな証拠となるため、東京の自然環境の現状とその変化を把握するにあたって、特に重要な情報と言えます。

◇ 東京都植物目録(暫定版)の公開

東京都環境局は植物目録作成事務局と協働し、東京都植物目録(暫定版)として、標本情報の一部を公表しました。本目録には、東京都内で採集された植物標本情報を複数の機関から収集し、計 **115,840 件、4,179 種類**を収録しました。

収録にあたり、一部の標本情報については再同定などを行いましたが、すべての標本情報を再確認したわけでは無いので、同定ミスや入力ミスが含まれている可能性があります。また今回の公表分では、タケ・ササ類及び、未同定の標本や栽培・植栽と判断したものを除いています。分類群の配列は APG IV の分類体系に従い、学名・和名については、監修者のもと Y-list(米倉・梶田 2003-)や日本産シダ植物標準図鑑(海老原 2016)などを参考にしています。今後は、更なる標本情報を収集するとともに、文献情報や現在進行中の都内フローラ調査の成果なども台帳に追加していく予定です。

【今回収録した標本情報の提供機関】

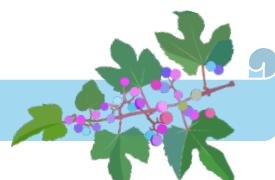
- 八王子市
- ・国立科学博物館
- ・パルテノン多摩ミュージアム
- ・福生市教育委員会
- ・日野市郷土資料館
- ・東京都立大学牧野標本館

植物目録監修者より

植物標本目録公開の経緯と現状について

加藤 英寿

1998 年に東京都立大学に赴任した直後から、私は牧野標本館所蔵標本のデータベース化を任せられ、タイプ標本やシーボルトコレクションのデータベースを公開してきた。並行して 2005 年から小笠原産植物標本のデジタル化も開始して、東京都全域にその対象を広げつつある。当館 HP で公開している「東京都植物誌デジタル版(URL:http://tmunh.jp/syutodai_dev/index.html)」には、「いつか東京都全域の植物相を網羅した東京都植物誌を編纂したい」という思いを込めている。しかしながら、標本情報のデジタル化には様々な問題がつきまとった。標本ラベルの



採集地名は時代とともに変化する上に、人によって書き方も異なる。同定情報はさらに混沌としており、分類群の定義の変化や同定間違いにも翻弄される。科学の世界ではデータのクオリティコントロールは極めて重要な課題だが、諸々の学務に追われる中で自分だけでは対応しきれず、専門知識を持たない大学職員の方にデータ入力をお願いするしかなかった。再確認が不十分なままデータベースを公開することに抵抗はあったが、利用者から間違いが指摘されればデータの精度も次第に高まるだろうと割り切り、標本へのアクセス促進を優先して批判を覚悟で恥を晒しているのが実情である。

今回、東京都との協働による本プロジェクトが始まったのを機に、これまで不十分だった標本とデータの照合を丁寧に進めるつもりでいたのだが、行政のスピード感によって大量のデータを早急に公開する必要に迫られた。これまで 20 年近くかけて入力してきた標本データではあったが、現時点では単純な入力ミスなどの間違いや矛盾が含まれていることを白状するとともに、2028 年頃を目指す「東京いきもの台帳」の取りまとめまでには、データの質・量ともに学術情報として信頼に足るものにすることを誓う。そしてこれらのデータが、東京都が計画している「(仮称)東京都自然環境デジタルリュージアム」に引き継がれることを強く期待している。



在来種ナガミハマナタマメや外来種ルビーガヤ等が混生する海岸草原。中央右に摺鉢山、左に小さく南硫黄島が見える。一般の人々は訪れることができないが、ここも東京都である。2021.12.20 小笠原諸島硫黄島にて

東京の植物へのこだわり

内野 秀重

武蔵野台地で生まれ育った私は、多摩丘陵の谷戸の複雑な自然に驚くと同時に、植物写真家である富成忠夫氏の革新的な写真図鑑に出会って植物を覚えるようになった。その興味はいつしか東京という器のどこに、どのような植物が生育しているのかという関心に收れんされるようになっていったが、今考えれば、その理由は「東京全体の植物相について記述された資料＝植物誌」が無かったからなのではないかと思う。東京のそれぞれの地域や個人でまとめられた植物誌的資料を見つけ次第、片っ端から集めてきたのも同様の潜在的動機があったような気がする。そんな私が今、デジタル版東京野生植物目録の公開に関わるのは当然か偶然なのかわからないが、いずれにしても身が引き締まる思いでいっぱいだ。

植物標本情報の公開に先駆け、東京都産の新旧の植物標本を多数チェックしてきたが、不思議と古い標本でもその植物の生育状況が頭に浮かんでくる。例えば、牧野富太郎が 1934 年に奥多摩町で採集したカヤツリスゲの標本があるが、隔離分布するこの珍しいスゲが東京に存在したことが話題に上がったことはおそらく皆無だろう。採集年をもとに年表を調べてみると、奥多摩湖(小河内ダム)計画決定の2年後、着工の4年前である。富太郎はダム計画の情報を知り、湖底に沈む前の集落を訪れ、水辺でこのスゲを採集したに違いない(牧野標本館 HP 東京都植物誌デジタル版参照)。このように、いつの時代の希少種であれ普通種であれ、ストーリーが見えてくる植物標本は少なくない。それだけに、牧野富太郎をはじめ、東京産の植物を採集して標本を作製し、標本庫にまで収めてくれた植物愛好家、研究者の皆さんに改めて敬意を表したい、今日この頃である。



谷戸湿地に自生するハチオウジアザミ
2008.10.29 八王子市東南部

コラム

東京 Topics of Flora ③ マツカサススキ *Scirpus mitsukurianus* Makino

狹山丘陵の一角にある小公園内の池。江戸時代には田に水を引くための用水池だったというこの場所で「かいぼり」が行われ、ミズニラやクロテンツキなど、いくつかの湿生植物が復活していました。2025年夏、その中に変わったイグサ科植物があるということで現場に足を運びました。確認した結果、その植物はヒロハノコウガイゼキショウということで落ち着いたのですが、近くの水際に大きな株立ちの植物が生えているのが目に入りました。光沢のある硬い葉はカヤツリグサ科ウキヤガラ属の特徴を示していましたが、花が見られず種類を特定することはできません。そして、この秋、再びこの池を訪れてみてびっくり。そこには、なんと内陸部ではほとんど記録のないマツカサススキが花茎をのばして果実をつけていたからです。マツボックリに似た形の実(小穂)をつける、大型の湿生多年草です。実は、マツカサススキの東京における分布は区部低地に偏っていますので、内陸部には生育していないと考えていたのです。



頭花の数が少ないコマツカサススキ
2021.8.24 八王子市

一方、同じ仲間でこれによく似たコマツカサススキは内陸の丘陵谷戸や台地部の湿地に生育

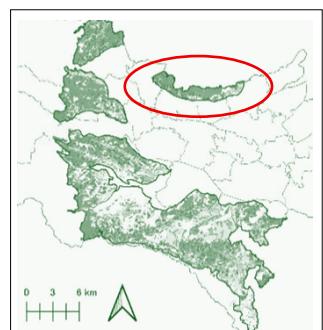
しており、狹山丘陵でもすでに目にしています。そして、この2種は沿岸部と内陸とで「すみ分け」をしているのではないかと考えていたのですが、今回の発見で見事に予測が裏切られてしまいました。もっとも、かつて村山貯水池(多摩湖)の堤体工事で地下からマガキの貝化石が出土した事実があり、50万年以上前にはこの地域にも海が入り込んでいたことは明らかで、ひょっとしたら最終氷期以後の縄文海進でも狹山丘陵の裾には渚のような環境があったかもしれません。もちろん、これをもってマツカサススキの存在と関連づけるのは早計ですが、日本固有種であるこれら2種の分布には地史的要素が少なからず関係しているのではないかと思うのです。

なお、この地域の資料を調べてみると、武蔵村山市の植物目録にマツカサススキとコマツカサススキの両方の名前があることがわかりました。結局、狹山丘陵域には両種が間違いなく生育していることが確かめられたということになります。そして、沿岸部に限らず、広域の河川や池などの富栄養な水湿地に生え、多数の剛壮な花茎を伸ばすのがマツカサススキ、そして、丘陵谷戸など貧栄養な湿地に少数の纖細な花茎を伸ばすのがコマツカサススキというそれぞれの種生態が浮かび上がります。地味な姿であまり話題に上がることはほとんどが、いずれの種も湿地の指標種であり、全国各地で生育地や個体数を減らしているため、保全対策が望まれます。(内野秀重)

参考文献:東大和市史編さん委員会編 1996. 東大和市史資料編5狹山丘陵と生きものたち. 東大和市.
武蔵村山市史編さん委員会 1999. 武蔵村山市史資料編 自然=植物・キノコ・動物. 武蔵村山市.



池の水際に発生したマツカサススキ
2025.11.20 東大和市



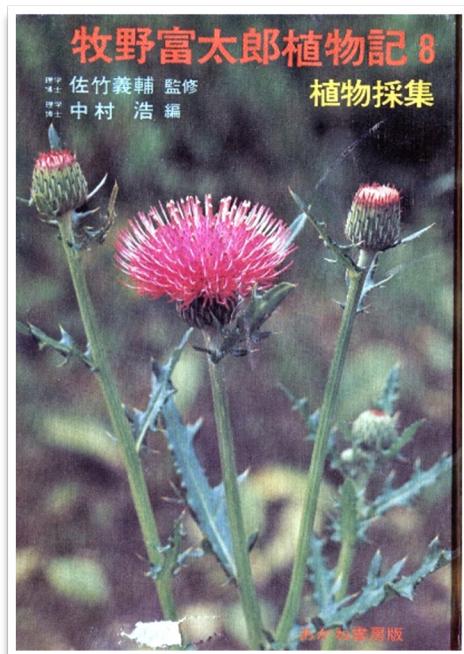
狹山丘陵位置 (赤丸)
東京都の保護上重要な野生生物の戦略的保全方針より
一部抜粋 (丘陵地)、編集

文献から探る東京の植物 ③ 『牧野富太郎植物記8 植物採集』

牧野富太郎植物記全8巻(あかね書房 1974)は、東京植物同好会に所属していた中村浩氏が、主宰の牧野富太郎による植物採集指導や講義録をもとに編さんした、少年少女向けの植物入門書である。1~7巻までは主として環境ごとの植物解説が続き、最終巻の8巻は観察や採集、標本作りの技法と採集に関するエピソードで締めくくられている。このシリーズ、かつては児童向け植物解説書の定番として図書館の児童コーナーに必ず並んでいたものだが、出版から50年が過ぎ、まず見かける機会はなくなっていた。

ところが、懐かしく古書店で手にしたこの叢書のページをめくってい
 たら、8巻の四「植物採集の思い出」の一項目に「明治時代の東京付近の植物」という記述があることがわかり、目をとめた。それは、東京区部における植物25種の小発見記であり、例えば、「キケマンが上野公園に自生していた」「ヨロイグサが品川にあった」といったタイトルとともにその植物の生育状況が簡潔な小文でまとめられていたからである。これらの植物の半数ほどは、「セリバヒエンソウが駒場にあった」「ボロギクが上野公園にあった」などのように、海外からの帰化種や国内外来種と思われる区部での発生記録であり、都心部が大きく改変されつつあった明治大正期という時代背景を強く想像させる。一方、「ドクゼリが牛込見附にあった」「ヒメハツカが三崎町にあった」「アズマギクが大井村にあった」等々の項では、そんな激動の時代にあってなお、東京にそんな植物が?と思わざるを得ないような草本類

が都心部に生育していたことが読み取れる描写となっており、この項に関しては叢書の刊行意図を超え、1900年頃の東京の自然史情報の貴重な記録となっているのがおもしろい。

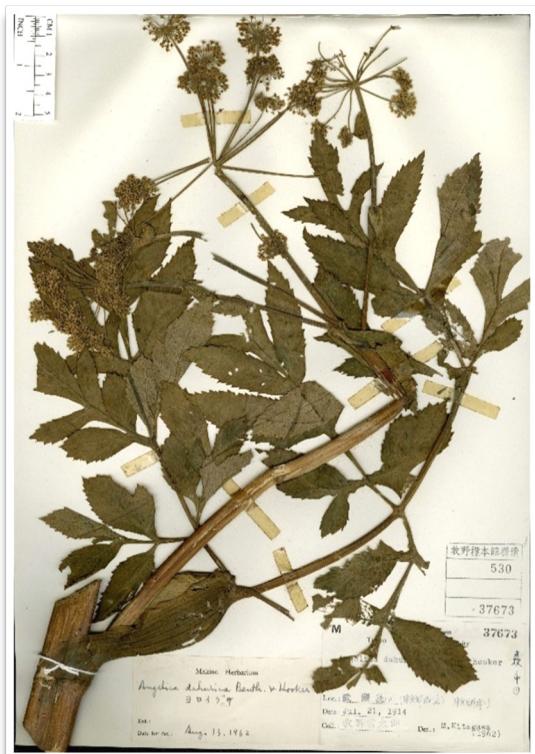


『牧野富太郎植物記8 植物採集』表紙



東京都区部の位置図

なお、牧野富太郎が都内で採集したヨロイグサの標本が牧野標本館に数点所蔵されているが、うち2点は品川で採集された標本(採集日 1914.7.21)で、この本の記述と見事に一致した。ヨロイグサが東京の自生植物かどうかは不明な点が多いが、この植物が従来から消炎・鎮痛として漢方薬に使用されてきたこと、本来の自生は近畿地方以西が主であること、そして本書の記述「品川駅前の橋を渡った南側の石がきのあいだに、この草の花がありました。(中略)この草はたぶんどこからか種が飛んできてぐうぜんにそこにはえていたものでしょう。」という記述からすると、どうやら、ヨロイグサは東京の自生植物ではなく、渡来薬草として栽培されてきたものが諸所に逸出野生化し、その一部が牧野富太郎によって採集されたと考えるのが妥当のように思える。(内野秀重)



ヨロイグサ MAK37673 牧野富太郎採集 (1914.7.21 品川) 牧野標本館提供

～東京都の野生生物目録作成プロジェクトの一環として精力的にコケ植物の調査を行っている、東京都立大学の木藤俊太朗さんに、東京のコケ植物相への思いとその現状について述べていただきました～

東京都のコケ目録づくり ～コケ班の現場から～

東京都立大学理学部 3年生 木藤俊太朗

東京都には何種類のコケが生えていると思いますか？東京のコケは、日本の中でも最も早くから研究されてきていて、松村任三や三宅驥一、牧野富太郎といった日本の近代植物学の黎明期に活躍した研究者たちの残した標本や記録も多く残っています。しかし、非常に多くの論文や標本があるにもかかわらず、東京都は関東地方で唯一、今までに一度も目録としてまとめられたことがありません。つまり、いったい何種類のコケがあるのかはまだ誰もわからない状態です。そこでこの機会に初めて、東京都のコケのリストづくりを行うことになりました。

のために、研究者の先生たちや、コケに興味を持っている地元の方々、岡山コケの会関東支部「コケ楽談」などを中心としたメンバーで現地調査や文献や標本情報の集約などの活動を進めています。調査は、下記のように都内各所で実施中です。あらためて丁寧に調べてみると、それぞれの環境から新しい発見が続々と得られてきており、採集した標本の詳細な検討を進めています。

9月に行った雲取山での調査では、スギゴケやミズゴケのなかまなど、コケの中では大きく目立ち、カラフルな種類も見つかりました(図1、2)。街なかの調査では、晩秋～初夏にかけての明るい地面に特に注目しています。そういった場所によくあるカゲロウゴケは「世界一小さいコケ」として認定されていて、その大きさはおよそ1 mmなのでまるで宝探しです。

大きなコケから小さなコケまで、東京の多様な環境に適応してさまざまな種類が見つかっており、これからも新たな発見がたくさんあると思います。東京都にはどんなコケが、何種類あるのか一いつかきちんとお答えができるように、これからも調査を続けていきます。

2025年度のコケ調査実施状況(4～10月)

●本土部・区部

妙正寺川・哲学堂公園(7/5)、善福寺公園(4/23・5/21・6/5-6)、善福寺川緑地(5/19・6/2・6/17-18)、和田堀公園(4/19・6/2)

●本土部・多摩地域

神代植物公園(6/30)、図師小野路(5/25・7/20)、孫惣谷および日原林道沿い(8/30)、鳩ノ巣渓谷(9/15)、雲取山(9/24-26)



図1 コセイタカスギゴケ（雲取山）



図2 ゴレツミズゴケ（雲取山）



図3 カゲロウゴケ（町田市）

活動報告

◇教育普及活動報告 (2025年7~10月)

○ ハーバリウムスタディ

第12回 7/16 実施

「秋川丘陵 夏の植物調査」～BIOME SURVEY を使ってみよう～

講師:御手洗望氏

場所:あきる野市五日市～小和田周辺にて 参加者:10名

猛暑のため、予定の金剛の滝行きを変更して五日市～小和田の散策調査会となりました。五日市の集落から下田の田園地区を抜け、丘を上がって御嶽神社～広徳寺を周り、最後は秋川を佳月橋から上流へと変化に富んだコースを歩き、Biome Survey を用いて記録調査しました。クロノキシノブ、トキホコリ、イワウメヅル、ウチワドコロ、ナツノタムラソウ、モウズイカなど、合計 299 種の植物を記録しました。



調査観察中の参加者



河岸に生育するウチワドコロ

第13回 9/27 実施

「パーツがわかれれば名前がわかる！イネ科植物入門講座」

講師:御手洗望氏

場所:東京都立大学牧野標本館 参加者:20名

用意された豊富な標本を使い、イネ科植物特有の用語を学び、主要な属について同定のポイントを教わりました。敬遠しがちなイネ科植物が身近になったという感想もいただきました。



イネ科植物入門講座の様子



標本を手にとる参加者

第14回 10/9 「植物標本作成講座@八丈島」

(荒天のため開催を 2026 年 3 月に延期)



草土手を観察する参加者



開花中のサクラタデ

第15回 10/15 実施

「秋の水田雑草観察会」

～あきる野小川水田から八王子高月たんぼまで～

担当:内野秀重・市川雅代・北野茂夫

場所:JR 東秋留駅から滝山城址まで

参加者:16名

あきる野小川地区から八王子高月町の水田地帯にかけて、秋川を縦断しての観察会を行いました。

ミゾカクシ、クログワイ、ヒルムシロ、マコモ等をはじめ、お目当てのホシクサやサクラタデも観察することができ、合計で 114 種の植物を記録しました。



クログワイ

◇主な専門員植物相調査記録 (2025年7~10月)

● 本土部・区部

・大田区本羽田・南六郷(9/23)イセウキヤガラ群生地。シオクグ、ホソバハマアカザ

● 本土部・多摩地域

・八王子市初沢町(7/11)コメガヤ、スノキ等

・清瀬市下宿柳瀬川(7/12)サイカチ、ノジトラノオ、クララ

・町田市小野路(7/13)キクモ、ヒンジガヤツリ、ミズオオバコ

・八王子下柚木(7/17)フシグロ(緑化由来?)、イタチハギ

・八王子館町(7/24)アギナシ、ミズニラ等

・東村山市多摩湖町(7/30)ノジトラノオ系雑種群

・国分寺市西恋ヶ窪(7/30)カワヂシャ、オグルマ、ヌマトラノオ

・東大和市(7/30)イヌヌマトラノオ、マツカサススキ等

・青梅市谷野(8/12)オオヒキヨモギ、アリノトウグサ、オミナエシ等

・日野市西平山用水路(8/15)ヤナギモ、アイノコイトモ等

・あきる野市(9/19)ノアズキ、ツルフジバカマ、ノジトラノオ等

・八王子市高尾山(9/19)ツルギキヨウ、オオバチドメ、アズマヤマアザミ等

・福生市・羽村市玉川上水緑道(9/22)ササバモ、ニガクサ、ヌマガヤツリ等

・奥多摩町 雲取山(9/24~26)多摩苔の会との合同調査、ヒメスギラン、コスギラン等

・多摩市唐木田(9/28)市民情報により外来種シラゲオニササガヤを調査

・清瀬市中里・下宿(9/29 清瀬の自然を守る会)ハグロソウ、ナガバノヤノネグサ等

・八王子市下恩方町(10/13)ユウガギク、センブリ、ベニバナゲンノショウコ等

・府中市四谷(10/19)アイダクグ、イチビ、ハマヤブマオ、ニシキソウ等

・武蔵村山市野山北・六道山公園(10/23)アオコウガイゼキショウ、オオニガナ等

・あきる野市五日市(10/29)市民情報によりオオツルレイタドリを調査

・武蔵村山市野山北公園(10/29)サンショウモ、ヒメミズワラビ等

● 島しよ部

・八丈島(7/12~17)ホウライカズラ、ハマゼリ、シマホタルブクロ等

・新島(10/23~25)オトコエシ、シロバナコシオガマ、マルバノハマシャジン等



オオニガナ
2025.10 武蔵村山市



コスギラン
2025.9 雲取山



ホウライカズラ
2025.7 八丈島



イセウキヤガラ
2025.8
大田区

◇その他の活動

・国交省京浜河川事務所の依頼によりイセウキヤガラ群生地を調査(8/6)大田区本羽田・南六郷

・福生市産植物標本の確認(10/23)福生市立郷土資料館

・国立科学博物館における東京都産植物標本の確認(10/31)

■編集後記

植物目録(暫定版)、いよいよ公開です！

□ 発行元・お問い合わせ先 □

★東京都立大学 牧野標本館

東京いきもの台帳 植物目録作成事務局

〒192-0397 東京都八王子市南大沢 1-1

Email : tokyoflora-ml@ml.tmu.ac.jp

加藤、内野、市川、北野

★東京都環境局 自然環境部計画課

生物多様性戦略推進担当

〒163-8001 東京都新宿区西新宿 2-8-1

都庁第二本庁舎 19 階 TEL : 03-5388-3548

内山、増澤、小林、片山、中村、深町、正田、佐藤